

はじめに

平成15年4月、総合情報処理センター（教員2名）が改組され、3部門（情報教育部門、学術情報部門、情報基盤部門 教員8名）から構成される総合メディア基盤センターが発足しました。当初は、教授1、助手1が欠員でしたが、平成18年4月までに全員が補充され、現在にいたっています。

発足から4年間が経過した現在、設立時のミッションがどの程度達成されたか、どの点が残されているかを中心に、外部専門家の方からの評価をいただいて、これからのセンターのあり方の指針とする目的で、平成19年度に外部評価を受けることになりました。

平成16年10月には、情報教育部門を中心に学術情報部門と情報基盤部門の支援をえて進めてきた全学におけるICT（Information Communication Technology: ICT）教育推進に関して、現代GPの補助金が採択されました。現代GP補助金と学内予算を含めて、3年間約12,000万円の予算で、全学のICT教育を大学教育開発・支援センターと協力して立ち上げてきました。これらの活動は、全国からも高い評価を受けていると自負しております。学術情報部門もこの間、知財データベースの整備や図書館のリポジトリ計画、研究データベースの集約活用、ICT教育用素材データベースの構築など、全学の教育研究面でますます高まるデータベースの開発や統合化で重要な貢献をしてきました。情報基盤部門では、益々高まるネットワークの整備やセキュリティ管理を先進的に取り組んできました。全国の同規模国立大学法人のセンターと比較をしても優れた取り組みといえると思います。平成19年度には、計算機システムの更新が行われました。

これらの主な活動を中心に、まず金沢大学の学内委員（情報企画会議選出）による評価を平成19年8月8日に受けました。そこで出されたご意見も取り入れた自己点評価報告書を作成し、外部評価委員の方々に送付をし、事前に読んでいただきました。平成19年9月27日に3人の外部評価委員の方々に当センターまでお運びいただき、面接、視察をしていただきました。その後、3人の評価委員間でご意見を交換され、外部評価意見書を頂きました。

早急に改善すべき問題点も指摘されましたが、総じて建設的なご意見を頂き、これまでの活動に自信を持つと同時に、ご意見に沿って今後のセンター活動の改善をセンター教職員一同が力を合わせて進めていきたいと考えております。すでに改善すべき点として厳しく指摘された広報活動については、まずセンターのホームページは一新されました。

最後に、外部評価委員の3人の方々は、大変お忙しい方ですが、時間をやりくりしていただき、当センターの外部評価活動を行っていただき、本当に感謝をしております。どうもありがとうございました。

平成20年3月
総合メディア基盤センター長
鈴木 恒雄